

資料2-1

2026年2月28日

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

令和7年度 ブルーカーボンWG報告

榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ブルーカーボンWG
WG長 山本 浩一(山口大学大学院創成科学研究科)

令和7年度ブルーカーボンWG 報告

【報告1】令和の里海づくりに向けた藻場・干潟の保全・再生の評価 の手引き(環境省, 2025)への掲載

【報告2】エフエム山口取材コスモアースコンシャスアクト 未来へのメッセージin山口

【報告3】アマモ再生活動(花枝採集一下種更新)

【報告4】第2回アマモ観察会(花枝設置会)

【報告5】アサリ被覆網上の大型藻類によるブルーカーボン貯留効果(山口大学での研究報告)

令和7年度ブルーカーボンWG 活動記録

- 2025年4月25日 被覆網UAV撮影(被覆網によるBC貯留効果)
- 2025年4月26日 被覆網藻類採取(被覆網によるBC貯留効果)
- 2025年4月29日 アマモ花枝採集(アマモ再生活動)
- 2025年5月25日 下種更新のためアマモ花枝設置(アマモ再生活動)
- 2025年10月17日 エフエム山口「コスモアースコンシャスアクト 未来へのメッセージ in 山口」取材対応
- 2026年2月3日 アマモ実生調査
- 2026年2月28日 令和7年度第1回WG

【報告3】アマモ再生活動(花枝採集一下種更新)

- 主催: 榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ブルーカーボンWG
- 日時: 令和7年4月29日 14:00集合
15:52最干潮
- 場所: 岩屋海岸
- 参加者: 17名(スタッフ)
- 集めた花枝はタコ糸で結び、ネット袋にいれあと再度北側に5月25日に設置した。



花枝採取エリア(白)



岩谷氏(BCWGメンバ)による説明



花枝を拾う参加者



袋に入れた花枝

【報告4】第2回アマモ観察会(花枝設置会)

第2回山口湾アマモ観察会
2025年5月25日(日) 12:00~14:00

【主催】 榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ブルーカーボンWG
【協力】 ふしの干潟いきもの募金

ポイント

- ・ 豊かなアマモ場の生物を観察します
- ・ 実際に自然のアマモに触れることができます
- ・ ドローンで空中からアマモ場を一望することができます
- ・ アマモを増やすための活動を行います

内容

- アマモ場体験 (解説：山口大学 岩谷深講師)
- 生物観察 (解説：水産大学校 南條楠士講師)
- ドローンによるアマモ場空中観察
- アマモ花枝設置

集合場所 山口市美濃ヶ浜海浜広場 (右図)
12:00集合、徒歩で見学場所へ移動
14:00現地解散予定

募集定員 20名程度

対象 協議会委員、ファンクラブとその関係者 (家族、職員等)

参加費 無料

持参物 参加者には別途お知らせいたします。

申し込み 5月12日(月)までに申込書を下記にメールでご提出ください。
榎野川河口域・干潟自然再生協議会事務局
(山口県環境生活部自然保護課)
〒753-8501 山口市滝町1-1
Mail: a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

雨天の場合 小雨では決行しますが強雨の場合は中止します

活動は Facebook で

- 主催：榎野川河口域・干潟自然再生協議会
ブルーカーボンWG
- 日時：令和7年5月25日
- 場所：長浜海岸，アマモ群落最北端部
- 参加者：17名(スタッフ12名，一般5名)
- 生物観察も同時実施
- アマモ設置面積：約400m²

【報告4】第2回アマモ観察会(花枝設置会)



アマモ場における生物観察

【報告4】第2回アマモ観察会(花枝設置会)

■南條講師(水産大学校)指導による生物観察会



スズキ稚魚などが採集された

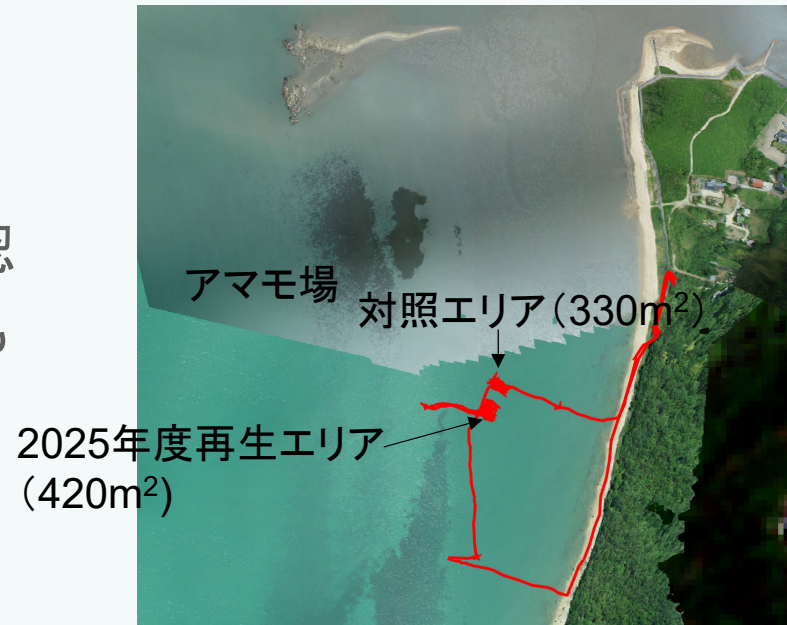
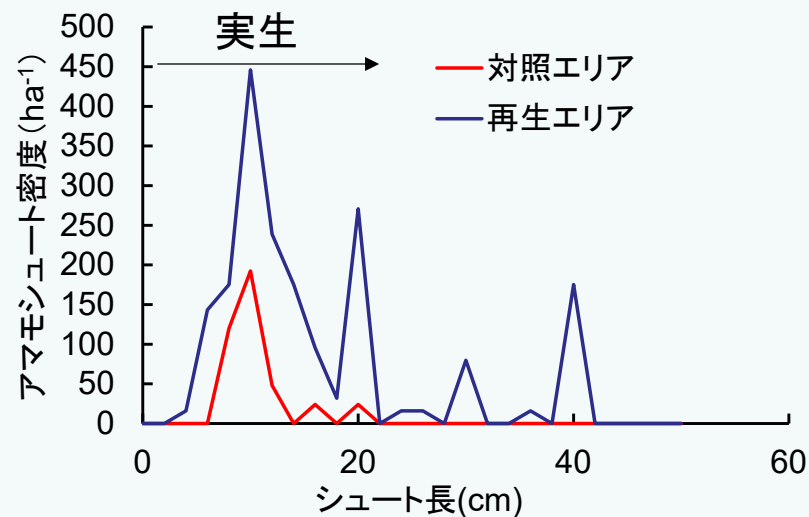


南條講師による説明

アマモ再生活動の効果

【報告4】第2回アマモ観察会(花枝設置会)

- 2026年2月3日に密度調査を行った
- 再生エリアでは3.9倍の実生の密度を確認
- 再生区では2024年度以前に定着した株も確認された



2025年度再生エリア
(420m²)



確認されたアマモの実生

【報告5】アサリ被覆網上の大型藻類によるブルーカーボン貯留効果

- 目的 干潟上にアサリの被覆網があることで貯留されるブルーカーボン量をUAVを用いて評価する手法を提案し、南潟の被覆網のブルーカーボン量を評価した



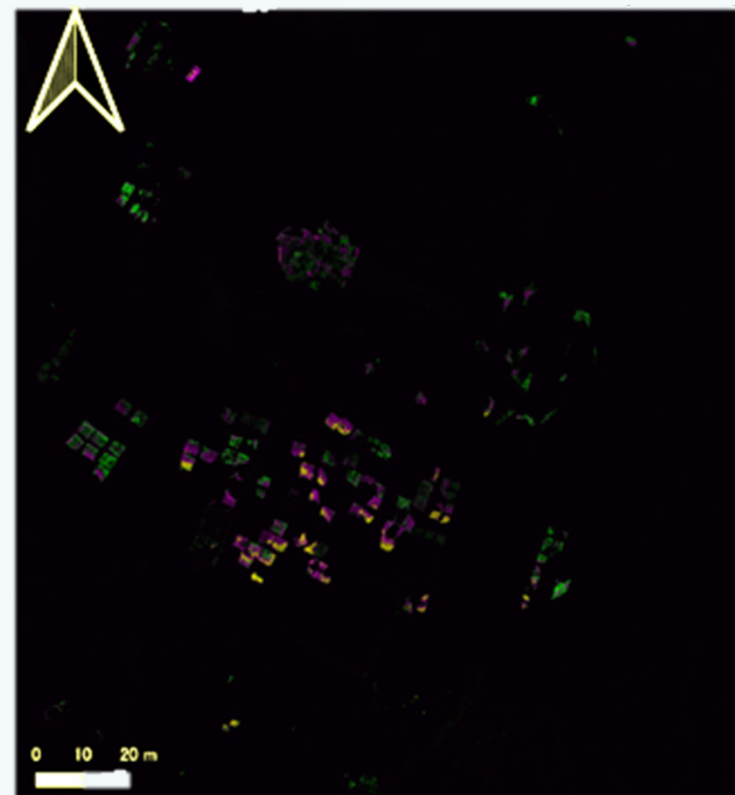
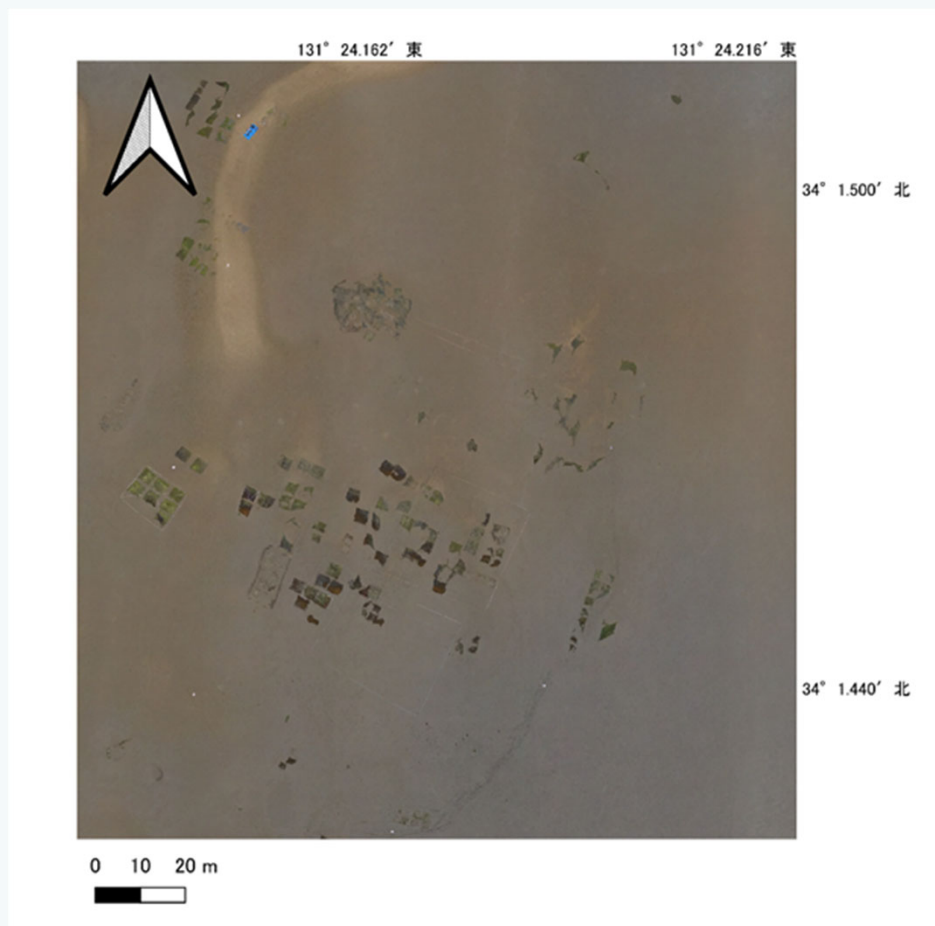
通常の大藻類付着環境(石など)



干潟上の被覆網の大藻類付着状況

研究結果 全域の被覆網の藻類のバイオマスの分布

【報告5】アサリ被覆網上の大型藻類によるブルーカーボン貯留効果



緑藻

紅藻

褐藻

研究結果 干潟全域のバイオマスの分布

【報告5】アサリ被覆網上の大型藻類によるブルーカーボン貯留効果

南潟における被覆網に付着した藻類の推定平均バイオマス(2025. 4. 26)

| | 面積(m ²) | バイオマス(g/m ²) | 総バイオマス(kg) |
|----|---------------------|--------------------------|------------|
| 緑藻 | 670 | 110 | 73 |
| 紅藻 | 290 | 230 | 67 |
| 褐藻 | 57 | 750 | 43 |

- 緑藻類が分布面積,総バイオマスともに最大値を示した
- 褐藻類は分布面積は小さかったが,バイオマスは最大値を示した

吸収係数:単位面積当たりの藻場が貯留するCO₂量

南潟における被覆網に付着した藻類の吸収係数(2025. 4. 26)

| | 採取した藻類の 吸収係数(gCO ₂ /m ²) | 一般的な藻場の 吸収係数(gCO ₂ /m ²)*) |
|----|--|--|
| 緑藻 | 14.0 | 9.7 |
| 紅藻 | 29.0 | 20.0 |
| 褐藻 | 95.0 | 30.0 |

吸収係数=バイオマス×吸収ポテンシャル

※吸収ポテンシャル:各藻類種ごとに決められた係数

一般的な藻場より被覆網上の藻類の方が高密度に付着

*) 水産研究・教育機構 (2023) 海草・海藻藻場のCO₂貯留量算定ガイドブック.
水産研究・教育 機構

結論 南潟の被覆網によるブルーカーボン貯留量

【報告5】アサリ被覆網上の大型藻類によるブルーカーボン貯留効果

- 干潟における被覆網の藻類のバイオマス推定方法を確立した
- 南潟の被覆網の藻類によるブルーカーボン貯留量はJBCクレジット申請最低量の1/4の量程度となる。

$$\begin{aligned} \text{CO}_2\text{貯留量} &= \text{吸収係数} \times \text{面積} \\ &= 0.025\text{t-CO}_2 \end{aligned}$$

※ブルーカーボンクレジットのCO₂認証の最小単位は0.1t-CO₂

令和8年度BCWG予定

- 2026年4月 令和8年度第1回BCWG会議
- 2026年4月・5月 マルチスペクトルUAVによる干潟被覆網・アマモ場撮影予定
- 2026年5月2日(予定) 第3回 アマモ見学会(アマモ場見学・花枝採集一当日下種更新のため設置)
- 2026年6月～7月 令和8年度第2回BCWG会議・勉強会